

# とばし教育委員会だより

2018.4.1 第13号



## 新1年生、期待を胸に小学校生活のスタート！

かもめ幼稚園ではぞう組21名の園児が卒園し、4月から1年生として小学校へ入学します。卒園を間近に控えた3月、幼稚園を訪れると、ぞう組の子どもたちは皆4月からの小学校にわくわくした表情で、「小学校では勉強がんばる！」、「ランドセルも買ったよ！」と目を輝かせて話してくれました。

# 平成30年度の主な教育予算について

4月に入り、新年度がスタートしました。  
平成30年度の教育委員会の主な事業や取り組みをご紹介します。

## 英語検定チャレンジ 942千円

国際観光文化都市・鳥羽の将来を担う子どもたちの英語によるコミュニケーション力の向上を目指し、英語検定チャレンジを行います。小学校6年生が「英検Jrブロンズ」、中学校2年生が「英検4級程度」を受け、学ぶ意欲向上につなげていただきたいと思います。



## 寝屋子の島留学 1,751千円

答志島の自然環境や歴史文化等の中での豊かな学びや、体験活動等を願う方を対象として、市外から児童・生徒を答志小・中学校へ受け入れることで、相互の教育効果の向上や地域に根差した教育の充実、地域の活性化等を図ることを目的とした「寝屋子の島留学事業」に取り組みます。



## 郷土学習推進のための「とばっこ検定」 1,000千円

子どもたちの郷土学習推進のため、平成29年度に作成した鳥羽歴史学習本「とばっこ探偵団―海からの挑戦状―」を小学4～6年生に配布します。また今年度は4年生を対象に「とばっこ検定」を実施します。



## 学校施設の改修・修繕など 88,278千円

各小中学校や幼稚園施設の不良箇所修繕や、老朽化したカーテンの取り替え、樹木の整備等を行います。答志小学校、長岡中学校では外壁の改修を行い、より安全で快適な教育環境を整えていきます。また、老朽化した神島教員住宅の改修や擁壁の補修工事を行います。



## うみはくを活かした鳥羽賑わいづくり 3,000千円

市立海の博物館の施設としての特徴を活かすと共に、新たな魅力を創出し、鳥羽の賑わいづくりにつなげるため、昨年度実施した「竹あかりと月あかりnight」などの事業を展開します。



## 旧鳥羽小学校法面崩落防止工事 30,560千円

鳥羽城跡東側（近鉄線路側）法面の安全対策の実施のため、崩落防止網の設置工事を行います。



## 市民体育館改修工事実施設計業務 8,471千円

鳥羽市民体育館を鳥羽市のスポーツ拠点施設として、施設の利活用を図るための改修工事に係る設計業務を行います。



なかぜ てるただ  
中世古 光正さん

大明東町在住。新聞配達業を営む一方で放課後児童クラブ「たんぼぼ」の代表を務める。約20年前より子どもたちの登下校の見守り活動を続け、これまでに安楽島地区青少年育成会会長、民生委員・児童委員などを歴任。

## あいさつは元気の特効薬

「なかちゃん、おはよう」  
「おじちゃん、おはよう今何時？」  
「おはよう、今7時40分やで」  
「ありがとう」

今日も子どもたちの明るい元気な声が飛び交う。これが私の一日の始まりです。

仕事を終えてから通学路で子どもたちの見守りを始めて早いもので20年。いつも子どもたちから元気とパワーをもらっています。これだけの会話でも、子どもたちの様子が分かるものです。

あいさつをすると「人と人をつなぐ」「笑顔が生まれる」「会話が生まれる」と言われています。学校や家庭では子どもたちにも「朝起きた時、人に会った時、あいさつをしましょう」と教えていますが、地域の皆さんはどうでしょうか、あいさつしていますか？積極的にあいさつを交わすことで、子どもたちの様子が少しずつ分かってくると思います。

最近、新聞やテレビのニュースなどを見ると、子どもを巻き込んだ悲惨な事件が掲載され、い日が無いように思いますが、その多くが大人の身勝手なことで子どもが犠牲になっているように感じられます。

子どもは、かけがえのない地域の宝です。子どもを巻き込む事件を起こさせないためにも、学校、家庭はもちろんのこと、地域が一体となつて見守つていかなければと思います。

「いつでも、どこでも、誰でも、そして少しでも」子どもたちに関心をもって、「出来ることを出来る」ところまで「無理をせずに、子どもたちの健全な成長を地域の皆さんと支え合っていくことが大切だと感じています。

今年もまた別れと出会いの季節がやってきました。新たな出会いを楽しみに、もう少しこの活動を続けていこうと思います。

## これから授業はこう変わる

平成29年3月に告示された新学習指導要領に基づき、小学校で外国語活動の拡充や外国語の教科化、小・中学校で道徳の教科化などが平成30年度から平成32年度にかけて段階的に実施されます。

### ■外国語活動の拡充と教科化

これまで、小学校では高学年（5・6年）のみ、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした「外国語活動」を年間35時間実施していましたが、今年度からは、中学年（3・4年）で年間15時間、高学年で年間50時間程度まで外国語活動を拡充して実施します。また平成32年度には、高学年で外国語が教科化され、「読むこと」、「書くこと」を加えた総合的・系統的な外国語学習が実施されることとなります。



### ■「道徳」が特別の教科化

人間としてより良く生きていくための「力」を育むため、これまで道徳の授業を行っていましたが、今年度から小学校で、平成31年度から中学校で道徳が「特別の教科」化されます。教科化されることにより、評価を通知表などに示すようになり、数値ではなく記述による評価を行います。国語や算数などと違い、子どもの道徳的な成長を見取るために1学期間や1年間といった長い期間で継続的に見ていくこととなります。

〈平成32年度〉

◆外国語活動の年間単位時間	15時間程度
◆外国語科の年間単位時間	50時間程度
◆外国語科の年間単位時間	50時間
◆外国語科の年間単位時間	70時間

〈平成30年度・31年度〉

◆外国語活動の年間単位時間	15時間程度
◆外国語科の年間単位時間	50時間程度

## 世界にはばたけ！ KOKUSAI KIDS CLUB

### 国際キッズクラブ

国際キッズクラブは「文化、言葉、習慣、国の違いを乗り越えて理解しあって交流できるようにする。」ことを目的に、平成7年5月に設立されました。

現在部員は、3年生14名、4年生21名、5年生13名、6年生8名の合計56名です。市内のほとんどの小学校から参加しています。

活動は月2回、毎年6月から翌年の3月まで、旧小浜小学校を主な活動拠点としています。活動は、一日のうちに3つのパターンを行います。



#### ①英語 Play in English!

ALT(アシスタントランゲージティーチャー)に来ていただき、生(なま)の英語を、ゲーム感覚で学びます。

#### ②ダンス Let's dance!

ユウコ先生が、すてきなダンスを教えてくださいます。3月の発表会では、ステージを華やかに彩ります。

#### ③チャンパン Try Japanese culture!

いろいろな地元のアートや音楽に挑戦します。鳥羽の方々も先生として登場。鳥羽愛満載です。

他にも、クリスマス会や発表会など、お楽しみがいっぱいです。

Why don't you come join us?

## 学校図書館整備員

### (学校司書)の配置によって

#### 鳥羽小学校の取り組み

平成29年9月から、市の事業として各小学校に「学校図書館整備員」が配置されました。

鳥羽小学校では、メディアセンターに季節感のある掲示物の飾り付けや、図書を紹介コーナーが設置され、温かみのある利用しやすい空間となりました。また、「図書館だより」の発行や「読書スタンプラリー」の企画など、子どもたちの学習や読書への意欲を高める取り組みも行っています。

- 子どもたちからは、次のような声が届いています。
- 新しい先生が来てくれてうれしい。
- 休み時間以外でも、司書の先生がいるときは本が借



りられるので、いないと「今日は図書の先生はいないの？」と残念に思う。

本を探しているときに「こんな本があるよ」と教えてくれてうれしかった。

読み聞かせしてもらって、とても楽しかった。

探している本を質問したら一緒に探してくれてうれしかった。

学校の図書担当者だけでは手の届かないところの整備や対応をしていただくことにより、子どもたちの学習や読書への意欲が向上していることを実感します。図書の貸し出し冊数は、1学期と比較して、全校で約20パーセント増えました。

## 文化財紹介 子どもゲーター祭

鳥羽市内では、各地で様々な祭りや年中行事が行われています。その中でも特に重要な祭りの一つとして数えられるのが神島のゲーター祭です。

この祭りは大晦日の宵から元旦未明に及ぶ八代神社の祭りでも、元日の明け方に日輪に擬した「アワ」と呼ばれる直径2m程の輪を、長い女竹で突き、空高く差し上げ、大漁を祈願する祭りとして知られ、県の無形民俗文化財に指定されています。

しかし、人口減や高齢化が進み、島の行事を仕切る「宮持」が不在であることから、今年は中止となってしまいました。

このような事態に、島の子どもたちが、先生や保護

者、地元のみなさんの協力を得て、3月2日に「子どもゲーター祭」として再現を行いました。

当日は、多くの島民が見物に訪れるなか、子どもたちは、再現されたアワやご神体のサバをもって島内を練り、浜で島民も参加して一緒にアワを突きあげました。

祭りの存続は、神島に限らず市内各地で厳しい状況にあります。この神島の子どもたちの取り組みは、地元の祭・

伝統行事の継承について改めて考え直すきっかけになるのではないのでしょうか。



ご意見ご要望をお寄せ下さい